

令和5年度第1回運営委員会 議事概要（案）

- ・開催日時 令和5年6月9日（金）10時00分～12時00分
- ・出席者 運営委員…………… 14名出席（欠席委員：1委員）
 ウィズセンター…………… 所長、次長、副参事、情報交流員

| 議事 | 概要 |
|---|--|
| <p>1 開会 2 委員の紹介 3 議事</p> <p>(1) ウィズセンターの概要及び令和5年度事業の概要について、その他について</p> <p>[質疑等]</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> | <p>ウィズセンター説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナール事業について、参加者は多いが、修了者数17人でその内、男性が4人、さらに、3回修了証の交付を受けた認定者は1人と、非常に少ないと思うが、この事業はいつから始まっているのか。また、修了者や認定者は増加していくと見積もっており、事業の目的自体は達成できていると考えているのか。 ・ゼミナール事業は、男女共同参画に係る地域リーダーを養成する目的で実施している事業だが、市町村職員で初めて男女共同参画に携わった方が主な受講者である。公務員であるため人事異動もあり、3回連続で修了された方が少ないため、結果として交付対象者が少なくなっている。 ・ゼミナール事業は、平成11年度にウィズセンターが開設された当初から、途中で名称が変更されているが、実施している事業である。 ・地元市町村の男女共同参画に関する審議会の委員に就任したり、地域住民への情報提供を行ったり、一定の成果は出ていると感じている。 ・一般相談件数が昨年度に比べ減っているようだが、何が原因なのか分析しているか。 ・一般相談の総数は減少しているが、DV相談の件数はさほど減少していない。要因については、コロナ禍に伴い、ウィズセンターを閉館した期間があり、来所相談が令和2年度は非常に少なくなった。脱コロナも見据え、来所相談も徐々に増加し、令和2年度比で言うと195%と約2倍になっている。来所相談が増加すると、その間は電話相談の対応ができないことから、全体の相談件数に影響があったと考えている。 <p>また、年齢層で見ると、若年層の20歳～39歳の方の相談件数が68%で</p> |

| 議事 | 概要 |
|---------|---|
| 委員 | <p>約70%に減少している。これは、おそらくSNSをよく使うため、直接電話することを避け、SNSで相談が可能なツールである、国が実施している「DV相談+（プラス）」という相談に流れたのではないかと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の事業の概要には予算額が記載されているが、令和4年度の事業実績には、決算額が記載されていないのはなぜか。 |
| ウィズセンター | <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の予算は概ね令和4年度と同程度の予算が確保できている。 <p>令和4年度の実績－決算については、現在、作業中であり、資料の作成までに間に合わなかったという事情があるので、ご理解願いたい。</p> |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> DV相談について、相談内容が「暮らし」「夫婦関係」「こころ」の категорияが多くを占めているが、「こころ」とはどういう内容か。また、「生き方」とはどう違うのか。 また、ツイッター、フェイスブックといったSNSは使われていると思うが、今後、ラインでの相談は検討しているのか。初めての窓口への相談は、ラインで行う方が多くの方が相談しやすいと思う。 |
| ウィズセンター | <ul style="list-style-type: none"> 「こころ」の相談内容については、ご自身のメンタルの状況について「ちょっと気分がすぐれない」といった内容や「職場のハラスメントで落ち込んで眠れない」といった内容である。「こころの相談」の面談への御案内を行ったものも含む。「生き方」は、学生やお勤めされている方の今後の進路のことである。 きらめきプラザ内にある青少年総合相談センターでは、今年度からラインによる相談を始めたと聞いている。予算やマンパワーの確保の関係で困難が伴うが、勉強していきたいと考えている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> DVの問題を解決するということで、とても力を入れており、とても安心するが、DVの内訳は誰が入力しているのか。企業側の立場から、DVの原因は家庭環境だけでなく、家事や子育てといった、仕事をしている母親に求められる役割が多く、母親への支援が届かないことがDVや虐待の原因ではないかと感じる。 就労している女性の支援というところでどの程度の予算や事業計画があるか。 |
| ウィズセンター | <ul style="list-style-type: none"> DVの内訳については一般相談員が入力している。 以前はウィズセンターでも「キャリアアップ講座」という名称で子育てが一段落された女性が再就職する際にビジネスマナーやパソコンの基礎学ぶ講座を実施していたが、現在は実施していないが、ハローワークの情報は常に提供しており、女性の再就職を希望される方があれば、マザーズハローワークの方に連絡し、ウィズセンターで相談ができる体制を取っている。 |

| 議事 | 概要 |
|-------------------|--|
| 委員 ウィズセンター | <ul style="list-style-type: none"> ・DV相談はどのようなルートで相談に結びつくのか。 ・相談したい時というのは波があるので、相談したい時にすぐ相談できる場所の検索が可能で、「私がここに相談していいんだな」ということがわかりやすい表現を意識した案内にしていきたい。 ・相談先が記載されたティッシュや名刺サイズのカードやステッカー等の啓発グッズを市町村を通じて配布している。公共施設やショッピングセンター、コンビニのトイレ等で見られたことがあるかもしれないが、そういった啓発グッズを介して電話相談に繋がったり、SNSを活用した広告を実施した結果、電話相談に繋がったもの、他の行政機関からの紹介によるものが多い。 ・ホームページやツイッターについては、できるだけわかりやすい表現になるよう工夫していきたい。 |
| 委員 ウィズセンター | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯の30代以下の世代に伝わる取り組みをできるだけ積極的にアウトリーチし、ウィズセンターの事業計画を民間団体と連携して取り組んでいきたい。 ・支援が必要な若い子育て世代に積極的にアウトリーチすることを考えながら、講演会等の事業を進めていきたい。 |
| 委員 ウィズセンター | <ul style="list-style-type: none"> ・ウィズプランでは令和7年度末まで事業参加者の男性比率を30%にする目標を掲げているが、資料では令和4年度の自己評価が示されていないので、令和5年度の事業計画案の説得力がない。できれば新しい年度なので、ウィズプランを踏まえた厳しい自己評価をしていただきたい。 ・了解した。ウィズセンターの方でも、評価に取り組んでいきたい。 |
| 委員 4 閉会 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろと御意見をいただいた。ウィズセンターには、委員の皆様からの意見参考に、今後の男女共同参画を推進されるようお願いしたい。 |